

三心を磨く

学校だより NO. 44
平成30年 2月19日(月)発行
須坂市立東中学校
文責：金井 勝久(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

第4回 学校運営委員会より

第4回学校運営委員会が、2月2日(金)に行われました。今回は、平成29年度の学校の活動についてご意見をいただいたり、生徒代表と意見交換したりしました。

【学校からの報告にかかわって】

○部活について、東中学校の生徒にとって、部活動というものはどんなものなのか。どんな思いで活動し、どんなことを身につける場になっているのか。

→ 本校の部活は須坂市の規定に従って運営しています。全員加入というわけではありません。保護者や生徒の意見は、「もっとやってほしい」という声もあれば、「縮小してほしい」という声もあります。働き方改革ということが世の中では言われていますので、部活動のあり方について、今後さらに考えて行く必要があります。

○生徒会や学校が進めていこうとしている「縦割りの活動」は、クラスマッチだけではなく、学習にも生かしてほしい。人に教えることができるというのは、学習を進めるうえでとても大切なことだ。

→ ご意見を検討させていただきながら、「縦割りの活動」を高めていきたいと思えます。

○「あいサポート運動」と「哲学対話」について、もう少し詳しく教えてほしい。

→ あいサポートは、福祉学習を充実させるために行っています。共生社会を作るために、障がいの有無にかかわらず困っている人がいたら、自分にできることをしていこうとする活動です。長野県内の学校では本校のみが「あいサポート団体」として指定されています。
→ 「哲学対話」は、長野県短期大学の馬場先生をお招きして、今年度から1年生が行って(年2回)います。友とかかわり合いながら活動し、相手の話をしっかりと聞き、相手を知る中で相手との関係をつくり、自分自身について語ることを目指しています。



「長野県短期大学の馬場先生の授業」
～「哲学対話」より～

【生徒も参加しての意見交換】…(一部抜粋)

○みなさんは、受験生ですが、何のために勉強をしていますか。

→ 僕は、将来のために勉強をしています。今勉強したことが、社会に出てから役に立つと思うので、将来の自分のために勉強をしています。

→ 私も、将来役に立つために勉強をしています。また、私は卓球をやっているのですが、勉強のような「やるべきこと」をきちんとできないと、「やりたいこと」である卓球もがんばれないと思います。だから、がんばる力をつけるために勉強をがんばっています。

○みなさんの時から、大学入試が変わります。何か不安なことはありますか。

→ 僕は、高校入試の準備を、先輩たちのアドバイスを受けながらしてきました。でも、大学入試の時は、先輩たちとは違う仕組みでの入試になるので、先輩たちのアドバイスを生かせるか不安です。

→ 入試では自分の考えを伝えることが重要になると聞いています。私は、自分の言葉で自分の考えをきちんと表現できるかどうか不安です。

○「自分の考えを伝える」ことが今、重要視されていますが、みなさんは得意ですか。

→ 書くのは得意ですが、話すことには不安があります。

○東中学校からは、1年間いろいろなことを発信してもらいました。わかりやすく発信してくれていると思っています。地域の方、保護者の方、また生徒の声としても、生徒会の充実については伝わってきています。みなさんが、3年間で学んだこと、自信をつけたことはどんなことですか。

→ 1・2年生で学んだことはみんなで協力することです。3年生で学んだことは、会長として全校の前に立ち、自分の意見を述べ、考えを全校で共有することです。

→ 全校の仲間と一緒に集会や企画などを行う時に、仲間がいればどんなに大きなことでもやりとげられることを学びました。

→ 私は人をまとめることの大切さを学びました。私たちが中心になって進めた東祭では、三役の的確な指示、見通しももった活動が全校を動かしていくことを学びました。

○しっかりと答えている様子を見て、「生きる力」が身についていると感じました。「東中がこんな学校だったらいいな」と思うことはありますか。また、そういうことを先生や保護者の方と話したことはありますか。

→ 直接先生や保護者の方と話すことはありませんでしたが、12月に行われた学校アンケートやその回答を通して、保護者の方からは、「学校がどんどん良くなっている」という声を聞きました

→ 私は、東中学校が「縦割りの活動」を通して更に仲の良い学校になるとよいと思います。東祭では、それが実現したと思っています。また、学校だよりは、意見交換の場にもなっているので、とても良い機会だと思います。

○みなさんの様子を見て、立派な生徒が育ってうれしいと感じています。しかし、人口減少、少子化は更に進むと思われます。自分たちは、大人になったら地元に残りますか？ それとも、都会に出ますか？ 私たちとしては、みなさんのような優秀な人材に残ってもらって、戻ってもらって、地域を盛り上げてほしいのですが…

→ 僕は、最初は都会で知識や技術を身につけ、腕を磨いてみたいです。その後、地元に戻って、できることからやっていきたいです。

→ 就職は都会でしたいです。都会で力をつけて、40～50代で地元に戻ってきたいです。または、地元でなくても過疎の地域にいて、自分の力を生かしたいと思っています。

→ 私は、須坂の子どもたちに卓球を教えたいと思っています。大学からは都会で力をつけて、戻ってきてからは、子どもたちのために教えたいと思っています。



「質問に的確に答える3名の姿」

※約1時間の意見交換でしたが、運営委員さんよりたくさんのご意見をいただきました。

また、今回は「生徒も一緒に…」ということで、全校を代表して全生徒会正副会長の3名が参加し、自分たちの体験や考え、思いなどをともしっかり話すことができました。委員の皆さんはもちろん、私たちも、生徒たちの成長を感じた時間となりました。

委員さんや生徒たちの声をこれからの学校運営に生かし、東中学校の生徒たちに還元していきたいと思っています。